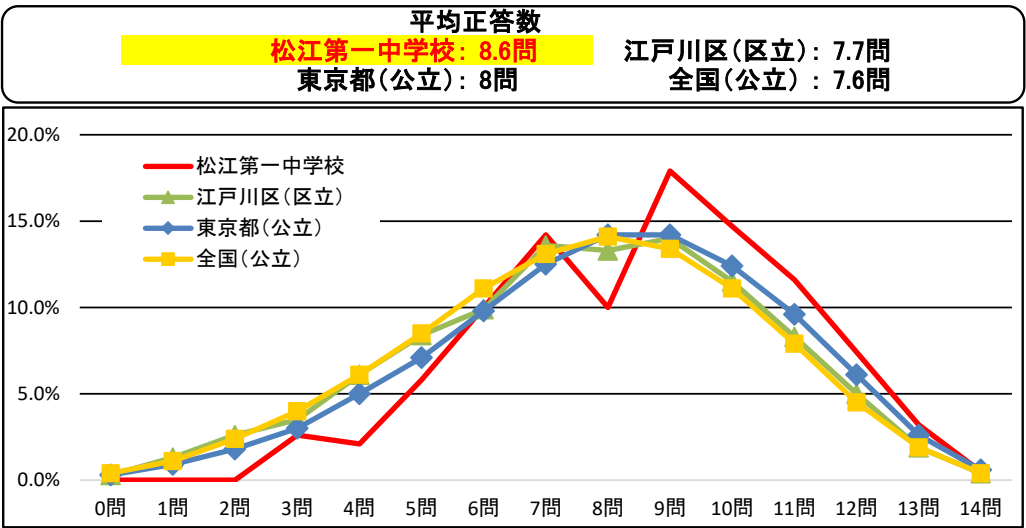


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 松江第一中学校

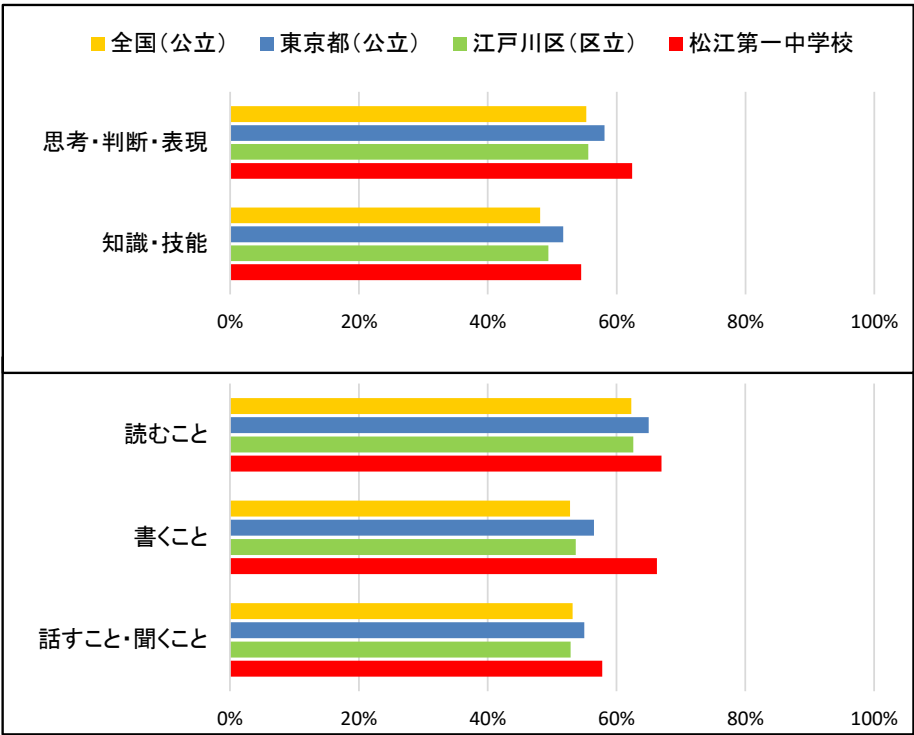
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

松江第一中学校	61%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	4.0

「領域別」の結果

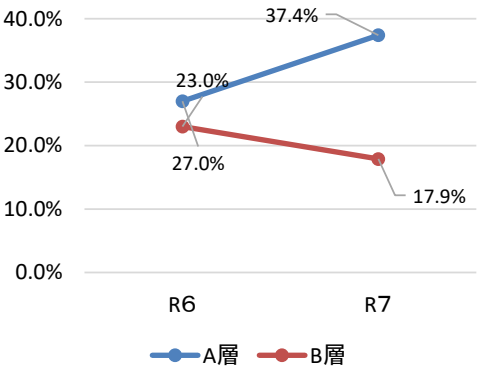


四 分 位 に お け る 割 合 ( 都 全 体 の 四 分 位 に よ る )

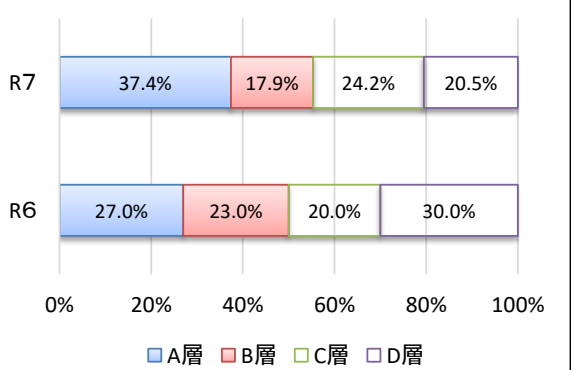
国 語	上位 A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	下位 D層 0～5問
	10～14問	8～9問	6～7問	0～5問
松江第一中学校	37.4%	17.9%	24.2%	20.5%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

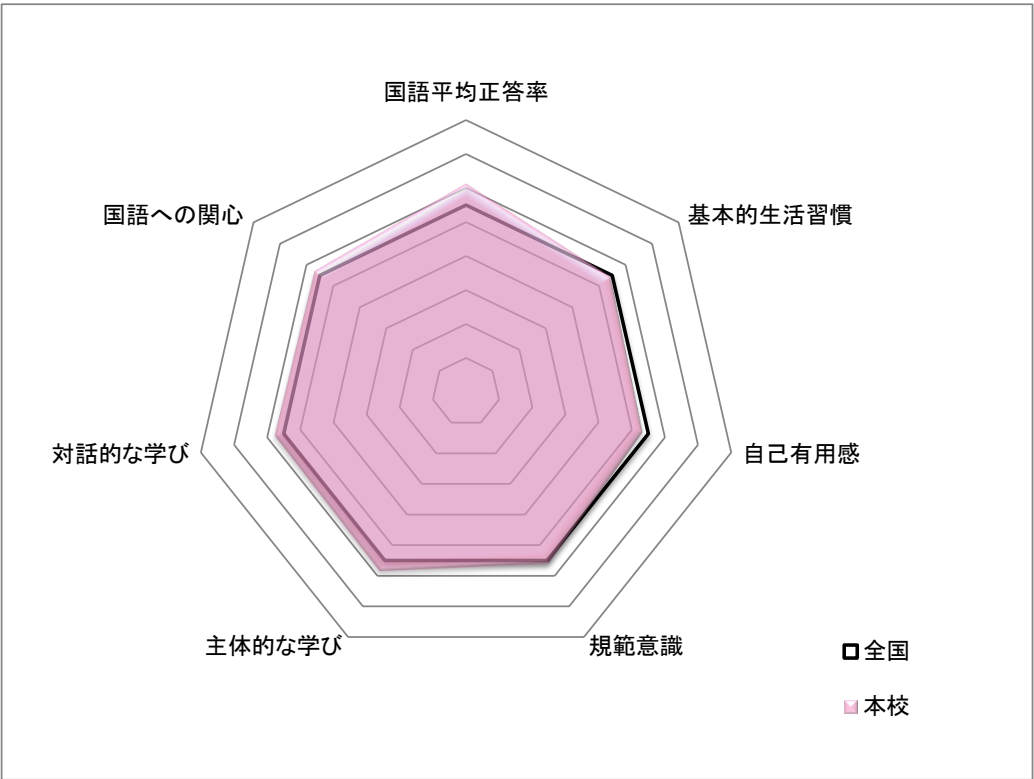
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- 平均正答率が、全国を大きく上回っている。
- 国語への関心や対話的、主体的な学びの項目が全国を上回っている。
- 自己有用感がわずかに全国を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- 学校公開等を利用して、授業の様子を見学していただき理解を図る。
- 国語科通信等を通じて評価の規準や授業での取り組み、生徒の努力等を伝える。
- 総合評価のパーセンテージや取り組むべき課題を紙面で渡し、生徒だけでなく保護者の方にも活動や評価に興味をもってもらうようにした。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- プレゼンテーションの発表や弁論、読解ワークなど期限を広くとって与える課題と、漢字小テストや感想、鑑賞文など単元に沿って与える課題の両方を用意し、目的に応じて生徒に取り組ませることで思考力の育成と基礎知識の定着を図る。
- 定期考査や単元テストのやり直しの機会を与え、互いに説明させ合うことで理解度を深めるとともに自らの課題を認識させる。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ワークシートを共有するとともに、授業のねらいや生徒につけさせたい力が明確になっているか、評価はどのようにするかを検討する。
- 定期考査の問題を全学年の国語科で検討する。
- 単元の取り組み方や指導・支援の方法を共有する。

・基礎学力の保障

- 漢字コンテストや単元テストを通して知識の定着を図るとともに、範囲を限定することで国語が苦手な生徒への学習意欲を喚起する。
- 評価の規準を明確にわかりやすく伝えとともに、達成しにくい生徒への個別指導を細やかに行う。

・学習習慣の確立

- 国語の長文問題ワークを3年間通して課題として設定するとともに活用方法だけでなく、取り組み方の計画方法も併せて伝え、振り返りで確認する。
- プレゼンや作文等の課題を与え、授業内外で計画的に取り組むよう指導・支援する。

・AB層の育成

- 特に書くこと・話すこと聞くことにおいて、個別指導の回数をできるだけ増やす。
- 作文課題に関しては、3年間を通して計画を行い、特に200字作文においてさまざまなテンプレートを教えると同時に、その時々に見える表現方法や工夫できるところを伝えることで、自分で取捨選択しながら課題に取り組めるようにする。